

道北・道東を周遊するための広域鉄道網として JR根室線の全線維持を要望する特別決議

～北海道創生に繋がる観光列車運行の実現に向けて～

JR北海道が維持困難線区としている 12 線区 1221 営業キロのうち、7 線区 910 キロが北海道の東側半分の地域を通過しており、根室線（滝川～富良野間／富良野～新得間／釧路～根室間〔花咲線〕）もその中に含まれています。

現在、北海道の将来を見据えた鉄道網のあり方について、各地で議論が進められていますが、去る 2 月 21 日、「国土交通省が JR 北海道の線路を国内外の企業に公募で貸し出し、観光列車を運行する国内初の試みに取り組む検討を始めた」との報道がありました。

私たちは、道内でも観光列車が実現すれば、広大な北海道全体を観光立国として大きく飛躍させることができ、さらに、地域間連携の強化や地域への新しい「ひと・もの」の流れをつくることができ、その結果、北海道創生にも繋がるものと期待します。

顧みて、平成 28 年 2 月、宗谷・上川・十勝・釧路・オホーツクの 5 町村会は合同で「道東・道北地域を周遊する豪華観光列車の運行実現」を高橋はるみ北海道知事に提言しました。

提言の背景には、JR九州が豪華寝台列車「ななつ星」を運行して脚光を浴び、JR東日本、西日本、東海も同様の豪華寝台列車の運行を公表し国内外から大きく注目をされていたこともあり、「北海道ならではの観光列車」を実現したいとの強い思いがありました。

この提言を受け、道においては、平成 28 年度に「観光列車運行可能性調査」を実施し、29 年度には「観光列車モニターツアー」を行い、30 年度もツアーを継続する予定です。

宗谷線・富良野線・根室線・釧網線・石北線を繋ぎ、域内の 7 空港や札幌方面を入り口にバスの旅や温泉などを組み合わせると、季節ごとに多彩なツアーが考えられ、道南や道央に集中する外国人にも、魅力的な旅が提案できます。

鉄道は世界的にその地方の文化そのものです。インバウンドで多くなってきている個人旅行者は、バスではなく鉄道での移動を求めると聞きます。

平成 30（2018）年は「北海道」と命名されてから 150 年目となる記念すべき年ですが、道北：旭川市と道東：釧路市を結ぶ鉄道は、明治 40（1907）年、狩勝トンネルの完成をもって全通し（釧路線）、これにより北海道が一つになりました。

大正 2（1913）年、起点が滝川に変更となり、同 10（1921）年、根室まで全通し、名称も根室線に改められましたが、根室線の北海道開拓に果たした役割は大変大きいものでありました。

また、根室線は全国の JR 線で、最も長い距離を最も長い時間をかけて走る普通列車が定期運行（滝川～釧路間 308.4km、8 時間 21 分）する路線として多くの鉄道ファンに知られています。（注：現在は距離は全国 2 位）

十勝は、昭和 62（1987）年に国鉄士幌線と広尾線が廃止され、池北線は平成元（1989）年にふるさと銀河線として第 3 セクター鉄道に転換しましたが、同 18（2008）年に廃止となりました。

私たちは、鉄橋が取り壊され、レールが剥がされ、ペンペン草が生えていく跡地をリアルタイムで見てきました。

一度なくした鉄路はもう戻りません。
現在、十勝を走る鉄路は、「（石勝線）根室線」だけになりました。

北海道の鉄道網が直面している厳しい現実を受け止めながら、人口減少の進行など将来を見据えた中で、地域にとって鉄道がどうあるべきか、を広域的な視点で考えたとき、私たちは、北海道開拓の根幹をなした歴史的財産であり、広域観光周遊ルートの有効な移動ツールである根室線は、将来に渡って、切断されることなく全線維持されるべき鉄路として残すことを強く要望します。

以上決議する。

平成 30 年 4 月 26 日

十勝町村会 臨時総会

十 勝 町 村 会

音	更	町	長	小	野	信	次
士	幌	町	長	小	林	康	雄
上	土幌	町	長	竹	中	弘	貢
鹿	追	町	長	吉	田	正	志
新	得	町	長	浜	田	一	利
清	水	町	長	阿	部	義	男
芽	室	町	長	宮	西	匡	憲
中	内	村	長	森	田	正	彦
更	別	村	長	西	山	晴	猛
大	樹	町	長	酒	森	勝	人
広	尾	町	長	村	瀨	正	優
幕	別	町	長	飯	田	勝	義
池	田	町	長	勝	井	秀	丸
豊	頃	町	長	宮	口	一	孝
本	別	町	長	高	橋	勝	夫
足	寄	町	長	安	津	秀	彦
陸	別	町	長	野	尻	一	隆
浦	幌	町	長	水	澤		廣